

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-57	高等学校	国語科	現代の国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	現国 704	精選 現代の国語		

## 1. 編修の基本方針

### 言葉を学ぶ。言葉で生きる。

#### 主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって自覚的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

#### 対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

#### 深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、中学校の国語学習の到達点を意識し、高等学校の国語学習が円滑にスタートできるよう、基礎・基本をふまえ、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、

思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

## ② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉を通して現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動を通して、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もっとも基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

## ③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという作業は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、話す・書くの領域における表現活動と、聞く・読むの領域における理解活動とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。この教科書では、表現、理解の学びに独自の学習の場を設定することで、それぞれの学習の場において、生徒たちの活発な学習活動を促し、話す・聞く、書く、読むの全ての領域にわたる言語能力を高めるよう配慮しました。その際、これまでの内向的な学びの傾向への反省から、自分の意見や考えを積極的に発信することで、他者ととともにする協働的な活動を通して、開かれた個性の育成、広範な教養の育成を目指しました。

## ④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動を通して社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいどる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題についても格別の配慮をしました。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
ぐうぜん、うたがう、読書のススメ	書籍との出会いについて述べた文章をとおして、読書体験を振り返って考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	10～17
塩一トンの読書	自らの読書体験から、書籍とのつきあい方について述べた文章をとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	18～25
水の東西	水の扱いを例に東西文化の違いを論じた文章とおして、比較という方法で文化について考え、伝統や文化に対する興味や関心を深めることを目指した（第五号）。	32～37
言語は色眼鏡である	異文化への寛容な態度こそ世界平和の礎となると論じる文章を読んで、日本の文化を愛するとともに他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	38～45
ネットが崩す公私の境	インターネットにおける情報発信について論じた文章をとおして、情報メディアのあり方を考え、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	54～58
「選べる社会」の難しさ	インターネットにおけるコミュニケーションについて論じた文章をとおして、「選べる社会」の出現がもたらした新たな問題について考え、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）	59～64
情報と身体	現代社会における「情報」について論じた文章をとおして、情報と身体の関係に着目してインターネット社会を考え、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）	65～69
辞書は生きている	辞書編集の観点から現代の言葉の変遷について述べた文章をとおして、言葉への関心を深め、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	74～79
アガルとノボル	語釈の分析について論じた文章をとおして、言葉の意味の違いを考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	80～84
大切な会話ーワールド・カフェへの招待	他者との関わりの中で問題解決に必要な知恵と創造性を引き出す方法を論じた文章をとおして、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	90～96
「見える文化」／「見えない文化」	多角的な文化理解について論じた文章をとおして、異文化理解に欠かせない視点を考え、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	108～111
ありのままの世界は見えない	見えるものが人によって異なることを述べた文章をとおして、「見る」とはどういうことか考え、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に	112～118

	社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	
コインは円形か	角度によって硬貨の形が変化して見えることを例に認識の問題を論じた文章をとおして、視点を変えることの重要性を考え、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）	119～125
人がアンドロイドとして甦る未来 アンドロイド基本原則	アンドロイドに対する基本原則を多角的に論じた文章をとおし、アンドロイドの登場がもたらす問題を考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	128～137
人間にできて機械にできないこと	AI など機械の認識と人間の認識の違いを論じた文章をとおして、その違いについて考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	138～143
自然をめぐる合意の設計	自然と人間の関係について論じた文章をとおして、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。	150～155
生物と無生物のあいだ	生物と人間の関係について論じた文章を読んで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。	168～176
ヒトゲノムの意義	「ヒトゲノムに関する基本原則について」に記述された「ヒトゲノムの意義」の解説文をとおして、人にとってのゲノムの意味を考え、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。	177～180
命は誰のものなのか	安楽死をめぐるさまざまな議論を紹介した文章をとおして、「生命の尊さ」について考えを深め、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した（第四号）。	181～185
対談 「国際貢献」ではなく「国際協力」である	国際協力のあり方について述べた対談をとおして、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	190～197
共生社会で求められる「相対的よそ者」の視点	共生社会に必要とされる観点を論じた文章をとおして、「相対的よそ者」という観点を自らに引き付けて考え、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	202～206
グローバリゼーションの光と影	世界的な経済や社会の現状について論じた文章をとおして、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	207～211
なぜ私たちは労働するのか	現代の若者の労働についての文章をとおして、勤労の意味や価値について考えを深めることを目指した（第二号）。	225～229
読書の扉	「幅広い知識と教養」「真理の探求」「豊かな情操と道徳心」「勤労の精神」「生命や自然」「伝統と文化」「国際社会の平和」などを尊重し涵養するための読書活動を推進することを意図して、各単元で図書をテーマ別に紹介した（第一号、第二号、第三号、第四号、第五号）。	30,52,72,85, 96,126,148, 166,188,214

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### 全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

#### カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

#### 環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

#### その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

## 編修趣意書 (学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-57	高等学校	国語科	現代の国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	現国 704	精選 現代の国語		

### 1. 編修上特に意を用いた点や特色

#### (1) 教材選定と作成の基本方針

##### 1 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、日常生活における言語活動の活発化をはかり、基礎、基本の充実を目指した教材

教材の選定, 教材化にあたっては, 中学校国語科における学習の成果をふまえて, 高校生として望ましい国語の力を身につけ, 日常生活における言語活動を活発化できるよう, 発達段階にふさわしい基本的なものを選びました。特に冒頭の単元に関しては, 入門期であることをふまえ, 興味をもって学習し一層の発展が期待できるよう, 特別に工夫をこらしました。

##### 2 生徒の思考力や論理性の育成に寄与し、現代社会の問題を主体的に考えることができる、客観的価値の高い教材

現代に生きる人間として, 生徒たちが自らの思考力, 判断力, 表現力を高め, さまざまな角度から問題を取り上げ, ことごらを論理的に把握し, 人生, 社会, 言語について思いを深めることができる教材を精選しました。

##### 3 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、共感をもって言語活動にとりくむことのできる教材

人間の普遍的な姿や, 思考・思想を表現した作品の教材化により, 生徒の思考力と想像力を刺激し, 共感をもって言語活動にとりくむことのできる作品を選びました。

##### 4 読書に親しみ、知識と教養を広げることのできる教材

幅広い知識と教養を身に付け, 真理を求める態度を養うため, 実社会との関わりの中で読書に親しみ, 読書の意義と効用について理解を深めることのできる作品を選びました。

##### 5 バランスよく配置された、定評ある教材と清新な現代的話題の教材

従来から教材化されて定評のある作品を機軸としながら, 現代的話題に満ちた清新な作品を教材化して, 生徒の興味を喚起できるように配置しました。

##### 6 多様な言語活動に即した、具体的、実践的な教材

日常生活において, 適切に表現する能力を育成し, 伝え合う力を高め, 必要な言語能力を確実に身につけられる教材を精選しました。スピーチや討論, 調査や報告, 小論文など, 多様な表現活動の場に即した, 社会生活につながる実用性に富んだ言語活動を, 体系的に段階を追って配しました。その際, そうした活動を支えるための, 情報収集, コンピュータや情報通信ネットワークの活用にも配慮して総合的な学習ができるよう工夫しています。単に文例や模範文を示すのではなく, 言語活動の具体的な展開を教室での実践に即した形で提示することによって, 生徒が主体的に言語学習に取り組めるようにしました。

#### (2) 構成と配列の基本方針

言葉による見方・考え方をはたらかせ, 国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を, 言語活動をとおして育成

するため、一つ一つの教材の価値を大切に、体系的な知識の習得と生徒の自発的・継続的な学習の流れを保証するよう、この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

## 1 全体の構成

教材の精選を図るとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「知識及び技能」を相互に関連させた一から十の単元と、さまざまな言語活動で活用するための「資料編」で構成されています。言語活動をとおして言葉の力を身につけることができるよう、生徒の学校生活、日常生活に即した言語活動の充実を図りました。実用性に富んだ活動例を精選し、単に文例や模範文を示すのではなく、言語活動の具体的な展開を教室の実践に即した形で提示することによって、生徒が自らの考えをもち、価値観を育みつつ、創造的に共感をもって考えたり、主体的に表現したりすることができるようにしました。

## 2 単元の構成

それぞれの単元は、扉に単元の言語活動と学習目標、各教材での学習事項を提示するとともに、単元末に「単元の振り返り」を設定し、自ら学習を振り返る機会を設けています。言語活動をとおして身につけた力を自分で確認し、次の学習に生かすことができるような仕組みを目指しました。

また、それぞれの単元での学習の流れは、各単元の「学びを広げる」に設定した言語活動が、円滑に展開できるよう工夫しました。各教材に設定した「脚問」と「課題A」「課題B」を「学びを広げる」の言語活動と有機的に関連づけ、学習の重層化を図りました。各教材を密接に関連させながら学習することで、総合的な言語能力を身につけられるように配慮しました。

## 3 「知識及び技能」について

「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱い方に関する事項」、および「言語文化に関する事項」について、生徒の関心を広げ、国語の特質に対する理解を深めるために、さまざまな工夫をこらしました。各単元の言語活動については、音声、文字、情報、それぞれに即した注意点を具体的に示しました。

また、各単元には教材に関連する書籍を紹介する「読書の扉」を設け、実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めるようにしました。さらに、それぞれの教材に「脚注」「脚問」、語彙・漢字の取り立てなどによる、言葉の体系的学習指導を目指すなど、総合的な国語の運用能力の向上を図るため、特に配慮してあります。

## 4 学習指導についての配慮

学習指導への配慮から、各教材の下段の注欄には、次の項目を設けました。

- ①脚注 1, 2……の番号をつけ、固有名詞や難解な語句、理解の必要な言葉などを解説しました。
- ②脚問 内容理解の手がかりになる箇所に①②……の番号をつけ、簡単な問いとして問①のように掲げました。  
「脚問」は「課題A・B」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく節目と位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることのないように配慮しました。
- ③語句 \*をつけ、語彙習得のため、意味や用法に注意して身につけておきたい語句を抜き出して示しました。

また、各教材には、次の項目を設けました。

- ①課題A 文章の内容を理解し、考え、言語活動への手がかりとなる問いを設けました。
- ②課題B 理解した文章の内容をふまえ、協働的、主体的にその理解をより深めるための学習課題を、問いや作業の示唆の形で盛り込みました。
- ③語句 教材中の語句に着目し、語彙力を高めるための問いを設定しました。
- ④漢字 常用漢字の習得のために、教材中の注意すべき漢字を選び掲載しました。

さらに、各単元には、次の項目を設けました。

- ①学びを広げる 各単元には、話す・聞く、書く、読む、それぞれの単元の目標に対応し、言葉の学びを協働的、主

体的に深め、広げる言語活動を設けました。

②単元の振り返り 各単元末には、各自で単元での学習を振り返って確認し、次の学習に生かしていくため、単元の振り返りを設けました。

③読書の扉 読書に親しみ、読書活動を広げる手がかりとして、教材と関連のある書籍を選び、紹介しました。

この他、適宜、二次元コードを教科書に付し、リンク先に学習の参考となる情報を掲載しました。

## 5 用字・用語・表記について

① 送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。

② 常用漢字以外の漢字については、原則として教材本文ごとの初出に振り仮名をつけました。

③ 常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞など読みにくいもの、迷いやすいものなどには教材初出で振り仮名をつけました。

④ 仮名遣いは、口語体の文章は現代仮名遣いとし、いわゆる文語体の文章は歴史的仮名遣いとししました。振り仮名も同様です。

⑤ 外国地名・外来語などのカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

## 6 写真・挿絵・図版などについて

教材の理解や言語活動の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版などを必要に応じて掲載しました。

## 7 「資料編」について

「資料編」には、学習活動を多様に展開するための資料となるもの、また、学習者が主体的に自らの学びを広げていくために参考となる以下の資料を収録しました。

「表現の技法①引用」「表現の技法②要約」「表現の技法③調査」「表現の技法④比較」「表現の技法⑤論理構成」

「表現の技法⑥推論のための用語集」「表現の技法⑦推敲」「課題文型小論文」「意見文を書く 新聞投書」

「原稿用紙の使い方」「手紙の書き方」「情報の収集と発信」「話し合いの方法」「表現テーマ例集」「常用漢字表」

この「資料編」の活用により、多様な学びの可能性が開かれ、学習者の言葉の生活が豊かになっていくことが期待されます。

## 2. 対照表

図書の構成・内容(教材名)		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
一 知らないものに出会う ぐうぜん, うたがう, 読書のススメ	川上未映子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●話す・聞く ア 話題の設定, 情報の収集, 内容の検討/イ 構成の検討, 考えの形成(話すこと)/ウ 表現, 共有(話すこと)</li> <li>[言語活動]ア スピーチ/エ 発表</li> <li>◆言葉 ア 言葉の働き/イ 話し言葉と書き言葉, 言葉遣い/ウ 漢字/エ 語彙</li> <li>◆情報 ア 情報と情報との関係/イ 個別の情報と一般化された情報</li> </ul>	10~17	6
塩一トンの読書	須賀敦子		18~25	
学びを広げる “この一冊” を伝え合おう			26~27	
[コラム] 読書は対話	若松英輔		28~29	



<p>二 相手のことを考える 水の東西</p> <p>言語は色眼鏡である</p> <p>学びを広げる 日本のお祭りはどういうものですか？ 身近な日本文化を紹介しよう 生徒作品 折り紙</p>	<p>山崎正和</p> <p>野元菊雄</p> <p>野矢茂樹</p> <p>●書く ア 題材の設定, 情報の収集, 内容の検討/イ 構成の検討, 考えの形成/ウ 記述/エ 推敲, 共有 [言語活動]イ 紹介文 ◆言葉 ウ 漢字/エ 語彙1/オ 文や文章/カ 表現の技法 ◆情報 ア 情報と情報との関係/イ 個別の情報と一般化された情報</p>	<p>32~37</p> <p>38~45</p> <p>46~49</p> <p>50~51</p>	<p>8</p>
<p>三 情報社会を生きる ネットが崩す公私の境</p> <p>「選べる社会」の難しさ</p> <p>情報と身体</p> <p>学びを広げる 情報社会について考える</p>	<p>黒崎政男</p> <p>松田美佐</p> <p>吉岡洋</p> <p>●読む ア 構造と内容の把握/イ 精査・解釈, 考えの形成, 共有 [言語活動]ア 批評/イ 図表等の読解 ◆言葉 ウ 漢字/エ 語彙/オ 文や文章 ◆情報 ア 情報と情報との関係/イ 個別の情報と一般化された情報</p>	<p>54~58</p> <p>59~64</p> <p>65~69</p> <p>70~71</p>	<p>6</p>
<p>四 言葉を見つめる 辞書は生きている</p> <p>アガルとノボル</p> <p>学びを広げる オリジナル辞書を作ろう</p> <p>[コラム]言葉の海の航海</p>	<p>飯間浩明</p> <p>柴田武</p> <p>見坊豪紀</p> <p>●書く ア 題材の設定, 情報の収集, 内容の検討/イ 構成の検討, 考えの形成/ウ 記述1/エ 推敲, 共有 [言語活動]ウ 調査報告 ◆言葉 ウ 漢字/エ 語彙/オ 文や文章/カ 表現の技法 ◆情報 ア 情報と情報との関係/イ 個別の情報と一般化された情報/エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方</p>	<p>74~79</p> <p>80~84</p> <p>85</p> <p>86~88</p>	<p>6</p>
<p>五 ワールド・カフェ 大切な会話—ワールド・カフェへの招待 アニータ・ブラウン&amp;デイビッド・アイザックス /香取一昭・川口大輔訳</p> <p>学びを広げる ワールド・カフェをやってみよう</p> <p>[コラム]問題を発見するための「寝返り理論」 糸井重里</p>	<p>●話す・聞く イ 構成の検討, 考えの形成(話すこと)/エ 構造と内容の把握, 精査・解釈, 考えの形成, 共有(聞くこと)/オ 話し合いの進め方の検討, 考えの形成, 共有(話し合うこと) [言語活動]ア スピーチ/ウ 話し合い ◆言葉 イ 話し言葉と書き言葉, 言葉遣い ◆情報 ア 情報と情報との関係/イ 個別の情報と一般化された情報/ウ 推論の仕方</p>	<p>90~96</p> <p>97~103</p> <p>104~106</p>	<p>6</p>
<p>六 思考の枠組みを広げる 「見える文化」/「見えない文化」</p> <p>ありのままの世界は見えない</p> <p>コインは円形か</p> <p>学びを広げる 相互理解を深めるために, 今何が必要か考えよう</p>	<p>原沢伊都夫</p> <p>田中真知</p> <p>佐藤信夫</p> <p>●読む ア 構造と内容の把握/イ 精査・解釈, 考えの形成, 共有 [言語活動]イ 読み比べ ◆言葉 ウ 漢字/エ 語彙/オ 文や文章 ◆情報 ア 情報と情報との関係/イ 個別の情報と一般化された情報/ウ 推論の仕方</p>	<p>108~111</p> <p>112~118</p> <p>119~125</p> <p>125</p>	<p>8</p>
<p>七 科学技術と人間 人がアンドロイドとして甦る未来 アンドロイド基本原則 谷島貫太</p> <p>人間にできて機械にできないこと</p> <p>学びを広げる 調べたことをレポートにまとめてみよう</p> <p>生徒作品 AIは仕事の未来を変えるのか</p>	<p>松田雄馬</p> <p>●書く ア 題材の設定, 情報の収集, 内容の検討/イ 構成の検討, 考えの形成/ウ 記述/エ 推敲, 共有 [言語活動]ア レポート ◆言葉 ウ 漢字/エ 語彙/オ 文や文章/カ 表現の技法 ◆情報 ア 情報と情報との関係/イ 個別の情報と一般化された情報/ウ 推論の仕方/エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方/オ 引用の仕方/出典の示し方</p>	<p>128~137</p> <p>138~143</p> <p>144~147</p>	<p>8</p>

<p>八 マイクロディベート 自然をめぐる合意の設計 関礼子</p> <p>マイクロディベートとは</p> <p>学びを広げる マイクロディベートをやってみよう 資料 ヒグマとどう共生するか</p>	<p>●話す・聞く ア 話題の設定, 情報の収集, 内容の検討1/イ 構成の検討, 考えの形成(話すこと)/ウ 表現, 共有(話すこと)/エ 構造と内容の把握, 精査・解釈, 考えの形成, 共有(聞くこと)/オ 話し合いの進め方の検討, 考えの形成, 共有(話し合うこと)</p> <p>[言語活動]ア スピーチ/エ 発表</p> <p>◆言葉 ア 言葉の働き/イ 話し言葉と書き言葉, 言葉遣い/ウ 漢字/エ 語彙</p> <p>◆情報 イ 個別の情報と一般化された情報/ウ 推論の仕方/エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方</p>	<p>150～155</p> <p>156～161</p> <p>162～165</p>	<p>8</p>
<p>九 生命について考える 生物と無生物のあいだ 福岡伸一</p> <p>ヒトゲノムの意義 ヒトゲノムに関する基本原則 科学技術会議生命倫理委員会</p> <p>命は誰のものなのか 柳澤桂子</p> <p>学びを広げる 小論文を書いてみよう</p>	<p>●書く ア 題材の設定, 情報の収集, 内容の検討/イ 構成の検討, 考えの形成/ウ 記述/エ 推敲, 共有</p> <p>[言語活動]ア 意見文</p> <p>◆言葉 ウ 漢字/エ 語彙/オ 文や文章/カ 表現の技法</p> <p>◆情報 ア 情報と情報との関係/イ 個別の情報と一般化された情報/ウ 推論の仕方/エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方/オ 引用の仕方や出典の示し方</p>	<p>168～176</p> <p>177～180</p> <p>181～185</p> <p>186～187</p>	<p>8</p>
<p>十 多文化共生社会と「私」 対談「国際貢献」ではなく「国際協力」である 緒方貞子・池上彰</p> <p>[コラム]ガンバリ砂漠を目指せ 中村哲</p> <p>共生社会で求められる「相対的よそ者」の視点 森千香子</p> <p>グローバリゼーションの光と影 小熊英二</p> <p>学びを広げる ポスターセッションで発表しよう</p>	<p>●読む ア 構造と内容の把握/イ 精査・解釈, 考えの形成, 共有</p> <p>[言語活動]イ 発表(書き換え)</p> <p>◆言葉 ウ 漢字/エ 語彙/オ 文や文章/カ 表現の技法</p> <p>◆情報 ア 情報と情報との関係/イ 個別の情報と一般化された情報/ウ 推論の仕方/オ 引用の仕方や出典の示し方</p>	<p>190～197</p> <p>198～201</p> <p>202～206</p> <p>207～211</p> <p>212～213</p>	<p>6</p>
<p>読書の扉</p>	<p>◆言語文化 ア 読書</p>	<p>30・52・72・85 96・126・148 166・188・214</p>	<p>適宜</p>
<p>資料編</p> <p>表現の技法①引用</p> <p>表現の技法②要約</p> <p>表現の技法③調査</p> <p>表現の技法④比較</p> <p>表現の技法⑤論理構成</p> <p>表現の技法⑥推論のための用語集</p> <p>表現の技法⑦推敲</p> <p>課題文型小論文</p> <p>意見文を書く 新聞投書</p> <p>原稿用紙の使い方</p> <p>手紙の書き方</p> <p>情報の収集と発信</p> <p>話し合いの方法</p> <p>表現テーマ例集</p> <p>常用漢字表</p>	<p>◎国語科の学習を効果的に進める上で役立つ知識を整理して示し, 国語に対する認識を深め, 国語を尊重する態度の育成を図っている。</p>	<p>216</p> <p>217</p> <p>218～219</p> <p>219～220</p> <p>221～222</p> <p>222～223</p> <p>224</p> <p>225～229</p> <p>230～233</p> <p>234～235</p> <p>236～237</p> <p>238～239</p> <p>240</p> <p>241</p> <p>242～255</p>	<p>適宜</p>
<p>計</p>			<p>70</p>